

コンピュータを用いた幼稚園と家庭の連携に関する研究

—保育者と保護者のコミュニケーション支援システムの開発—

松河秀哉

(大阪大学大学院)

1. 問題意識と研究の目的

筆者(松河, 1999)は、幼稚園と家庭の連携手段に関して、代表的な手段を取り上げ、それぞれの手段がどのような性質を持っているか(物理的性質)、それぞれの手段に利用者がどのような感情を抱いているか(心理的性質)、それぞれの手段でどのような情報が交換されているか(伝達内容)を保護者への質問紙調査により明らかにしてきた。この結果、様々な手段を通して、最も頻繁に交換されている情報は子どもの様子に関するものであることが示されている。このことから、保護者が子どもの様子を把握することに高い関心を持っていることが考えられる。

ところで、幼稚園から子どもの様子を全体的かつ長いスパンで定期的に伝える手段としては、園だよりやクラスだよりが存在し、個人的かつ長いスパンで定期的に伝える手段としては、懇談会や家庭訪問が、また、何か特別なことがあったときに個人的かつ随時に伝える手段としては連絡帳や電話が存在する。しかし、子どもの様子を、個人的かつ短いスパンで定期的に伝えることが出来る手段は、これまでほとんど考えられてこなかった。日々の子どもの様子を、個人的に迅速に伝えることが出来れば、園と家庭が協力し、連続性を持って保育を進めていくことがより容易になると考えられる。にもかかわらず、こういった手段がこれまでほとんど考案され、使用されてこなかった原因は、以下のように考えられる。それは、近年まで、このような目的に適した技術や装置が存在しなかったため、ある日の出来事を伝えようと思えば、保育者が連絡帳にかなりの量を手書きするしかなく、大変な負担となるため実現されてこなかったということだ。

しかし、現在では、パソコンやインターネットなど、情報を簡単に編集し、即座に発信することを可能にする基盤が整いつつあり、実際に様々な園がウェブページを作成していて、中には子どもの情報を、文章や写真を用いて発信している園も見られるようになってきている。こうした手段の中では、写真によって子どもの表情など細かな情報を伝えることが出来、さらに文章によって補足の説明も付けられるうえ、双方向のやりとりが可能であるため、発信した情報に対する保護者の意見も求められるので、子どもの様子を伝えて連携を深める手段としては適していると思われる。しかし、実際に頻繁に情報の更新を行い、日々の子どもの様子の伝達を行っている例はほとんど見られない。また、保護者の意見が生かされている例も多くはない。これらの原因は、子どもの様子を写真に撮り、保護者の意

見を読み、コメントをつけ、ウェブページにのせるという作業が、コンピュータやネットワークに関する知識や、複雑で時間のかかる操作を要求するため、毎日更新することが保育者にとって依然として大きな負担となっているからであると思われる。また、保護者の意見を生かしたページを作るという観点からは、インターネット上で保護者の意見を受ける手段(メールや掲示板)と、ウェブページを作成する手段が別であることも大きな制約となっていると思われる。

そこで本研究では、保育者が容易にウェブページに子どもの情報を個別に発信し、保護者の意見も採り入れながら、持続的に更新していくことが出来るシステムを開発し、実際に幼稚園で運営することを目的として、その構成を提案し、今後のシステムの運営における研究上の検討課題を整理する。

2. システムの構成

本システムは、a.保育者が、デジタルカメラによって写真を撮影し、その写真や写真に対するコメントを、コンピュータの複雑な操作やネットワークの仕組みを意識することなくウェブページに公開すること、b.保育者と保護者が公開された子どもの情報をリソースとして意見を交換し、ともに子どもに対する理解を深めながら公開を継続することで、さらなる子どもの理解と、保育者—保護者の連携を促進することを目的として構成するものである。以下は本システムの構成図である。

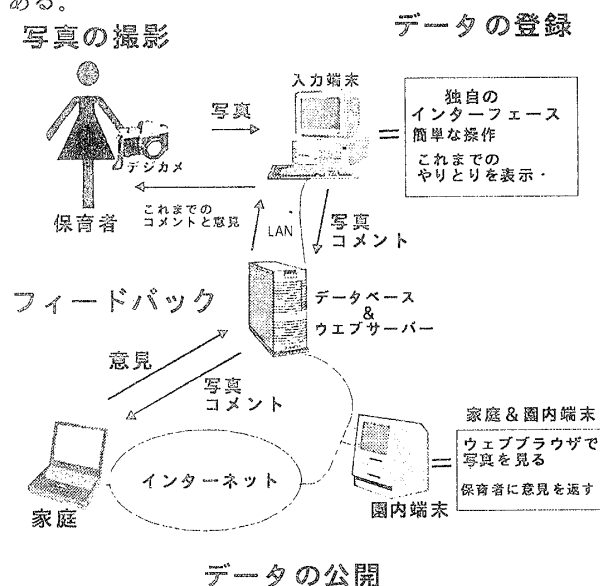


図1 システム構成図

2.1. システムに必要な機器

デジタルカメラ、情報登録用パソコン、インターネット用各種サーバ、LAN 回線、グローバル IP が使用できるインターネット回線、保護者閲覧用に園に設置するパソコン

2.2. 写真の撮影

保育者は、デジタルカメラを携帯し、保育中などに、子どもの様子を撮影する。写真はウェブページに載せるためのものであるため、デジタルカメラの解像度は 640 × 480 ドット程度でよいが、スマートメディアやコンパクトフラッシュなど、PC カードアダプタを介してドライブとしてパソコンに認識させることが出来る記憶媒体を採用し、jpeg 形式で画像を出力できるもの、もしくは、USB ケーブルでパソコンに簡単に接続できるものを用いる（現行の大半の機種はこれに該当する）。

2.3. データの登録

保育者がデジタルカメラで撮影した写真にコメントを付け、ウェブページとして公開するために、サーバにデータを登録するための、Windows 上で作動する、独自のインターフェースを持ったアプリケーションを開発中である。詳細はまだ未定であるが、インターフェースの目標としては、

- a. 保育者が一人につき数回のボタン操作で、写真とコメントをウェブページとして簡単に公開できること。
- b. 保護者と保育者のやりとりが連続性を持って発展していくようにするために、保育者がある子どもの写真にコメントをつけるときに、以前登録したその子どもの写真に対するコメントや、そのコメントに対して寄せられた保護者の意見の履歴を、コメントの入力画面と併置して表示すること。

の 2 点が上げられる。入力した情報は、LAN を通して自動的にデータベースに登録される。

2.4. データの公開とフィードバック

開発中のアプリケーションを通して、データベースに自動的に登録された情報は、ウェブサーバを介して通常のブラウザで閲覧できる形で、インターネットに向けて公開される。また LAN を通して、園内に設置した、閲覧用の端末に対しても公開される。これにより、自宅にインターネットからウェブページを見る環境を持たない保護者にも情報の閲覧を可能にする。公開される写真やコメントなどの情報は、すべてプライバシーに関わる個人情報であるため、各園児ごとに ID とパスワードを設定し、各園児の保護者のみがその情報を閲覧できるようにする。保育者とのやりとりを連続して発展させていくため、各園児の情報を載せたページには、保育者に対して、そのページを見ての意見を書く場所をもうけ、インターネットや LAN を通して、保護者の側からも、直接保育者に意見を返すことができる様にする。その他、保護者用のページのデザインの詳細については現在検討中である。

2.5. 今後の課題

2000 年の 5 月よりこのシステムを大阪市内の H 幼稚園で運用する予定である。このことにより、保育者と保護者のやりとりは、量的にも質的にも変化するとと思われる。やりとりの量に関しては、手段が新しく加わることになるため、必然的に増加するとと思われるが、今回のシステムは、従来の手段に比べて保育者と、保護者の意見の交流を促進するようにデザインされているので、使用期間が長くなるにつれ両者の相互理解が深まり、それによって、連絡帳や立ち話などのほかの手段でのやりとりの量も増加するとと思われる。また、やりとりの質に関しては、このシステムを使用していくことによって、保育者と保護者が、同じリソースを共有していることを確認できるので、これを手がかりにやりとりされる内容がより「深い」ものになっていくと思われる。また、一学期間にたまった情報をプリントアウトし、それを元に懇談会で子どもの成長を振り返って話し合うなど、ほかの手段に対しても質的な変化を及ぼすことが考えられる。

実際にシステムを開発し、運用していく中で、これらの量的、質的な変化を評価し、保育者の負担を検証していくことが今後の課題である。

3. システムの特徴

以上に示したように、このシステムは、単に園児の写真やコメントを素早くウェブページに掲載することを支援するものではない。保育者によって登録され更新されていく、写真やコメントなどの情報をリソースとして、保護者と保育者が交流を図り、子どもに対する理解を深め、連携を進めていくことを意図したものである。そのために、保育者が使用する情報登録用のアプリケーションには、保育者が、これまでに登録した写真に対する自分自身のコメントや保護者の意見の履歴を参照しながら、新たな写真やコメントを入力できるインターフェースを、また、保護者が閲覧する、子どもの写真と保育者のコメントが蓄積されたウェブページには、保育者に対して意見を返すことができるインタフェースをそれぞれ設けることによって、両者の交流が自然と促進されるようにしたことが、本システムの特徴である。

4. 参考文献

- 松河秀哉（1999） 幼稚園と家庭の連携手段に関する研究－保護者への意識調査を通して－ 日本教育工学会第 15 回大会講演論文集 593～594 頁
- 文部省（1989） 幼稚園教育指導資料第 2 集 園と家庭の連携をはかるために
- 松田総平（1996） コンピュータ・ネットワークによる教育情報の共有化について－幼稚園ネットワークの構築－ 日本保育学会第 49 回大会研究論文集 916～917 頁